

山もうき世になりけるかな

加藤ひな子

ながむればわか世の秋も更にけり

山かげ庵のありわけのつき

設樂御幸子

我山はいはへのやまのうへなれば

月のみやこもちかく見えけり

水橋康子

かり人の妻にやあるらん扉あけて

雁なくかたのつきぞながむる

大河内桂子

うつりゆく都のさまをよそにして

わかやまさとの月をみるかな

佐々木雪子

都へとすゝめらるれどやまずみの

ことしもみたり秋の夜のつき

印東昌綱

今日も又かりのゑものゝ少なくて  
柚かいほりの月をみるかな

佐々木信綱

山水にうつろふ月のかけきよし

よつのをごとのちりや拂はむ

月前雲 東くめ子

月の前ゆく うきくもを

心なしとや かこつべき

くまなき影を なほぬぐひ

光をみがく 物と見ば

花のかげ 小林つねを

優しことふよ 花のかけに

むかしの夢や かたらまし

こがねの色の 香にゑひて

にはへる花も 捨ていにし

屑うるはしや なれのごと

かよわき君よ いまいづこ

やさし小蝶よ 花のかけに

昔のゆめや かたらまし